

せめて水なみの米価に

下の囲みは、朝日新聞からの抜き書きです。紙面が足りず全文を紹介できないのが残念だけど、日本農業の現状と将来を論じるのに、アメリカなどからの圧力には全く言及がないのだから呆れます。植民地根性というか、いつものことなので驚きはしませんが、情けない立脚点ではあります。なので、逐一の文章を検討しても、あまり意味はないとは思いつつのお人好し……

たとえば引用の末尾「発想を大転換して、コメ農業を根本から立て直さなければならぬ」と振りかぶっているのを期待したら、「それには

(前略) 中国などからの輸入抜きに、日本の食は成り立たなくなっている。カロリー自給率が39%と先進国で最低だからだ。

(中略) 好きなだけ輸入できる時代がどこまで続くだろうか。

食の安全網となるのは国内の農業である。なのに、その衰退ぶりは何とも頼りない。衰退の原因は、農政の中心であるコメ政策にある。(中略)すでに農業で働く330万人の6割が65歳以上。このままでは、日本の農業は滅びてしまう。そんな恐れさえ感じる状態だ。

発想を大転換して、コメ農業を根本から立て直さなければならぬ。それには自由にコメを生産して足腰の強い農業をつくり、米価を下げて消費を拡大する。(後略)

自由にコメを生産して足腰の強い農業をつくり、米価を下げて消費を拡大する」だと。どこが“発想の大転換”なのか。これまでのお題目そのままじゃないか。

*

昨年の秋、農家が出荷した米の値段は、玄米1俵で1万円くらいにしかありませんでした。かつての半分ちかくまで安くなってしまっています。そんな暴落のもとでつづく米の消費量の減少になんて、まるで知らんぷりなんだから、現実を踏まえての考察とはとても言えない代物ではあります。

いっぽう米の生産費は、「農業経営統計調査」によれば、自作地の地代などを別にしても、1俵で約1万4千円とされています。

写真(上)は、コンビニで買って来た“水”です。500mlのペットボトルで137円でした。この容器に米を詰めると、約400gになります。それを昨年の農家の出荷価格で換算すると、75円くらいにしかありません。

仮に赤字ぎりぎりの1俵1万4千円で計算してみると、105円くらい。だから、せめて水なみの価格で出荷できれば、稲作経営にも希望もてるかもしれません。

「米価を下げて消費を拡大する」と書く記者センセは、“水”の何分



里のギャラリー

の1の安さになれば、いまより米をたくさん食べるようになるのか聞いてみたいものです。

*

白を黒と言ってるというか、天下の大新聞がとんでもないごまかしを前提にするもので、「衰退の原因は、農政の中心であるコメ政策にある」という決めつけには腹が立ちます。

戦後、アメリカの圧力のままに、農産物の自由化をすすめてきた結果、日本人の基本的な食物だった大豆やムギやナタネなどを含め、米以外の作物が軒並み潰されてしまいました。その流れで、農政の対象が米にかたより、食料の自給率も下がってきたのではありませんか。

最後に残った米までつぶそうとするマスコミ。食糧自給率の低さを問題にして書き始めたはずの社説なのに、それを高める方策は「夢ではない」という絵空事でまとめています。

マスコミや政治家には、現場の農作業と、いま世界に広がる「食料主権」について勉強してもらいたい。

